



年頭のご挨拶



農業委員長
松永 晋一

謹んで新年のご挨拶を申し上げますとともに、令和6年能登半島地震により被害に遭われた皆さまに心からお見舞い申し上げます。

前年は、観測史上最高気温を記録し、農産物の生産や生活に多大な影響を与えました。

水稲においては、七月からの高温・干ばつによる白未熟粒や胴割の発生により、作況指数は平年並みとはなりましたが、上位等級米の比率が大きく落ち込み収入に大きな影響を与えました。また、野菜・花きでも凍霜害・高温干ばつの影響を大きく受けました。

牲が続いています。さらに、ロシアへの経済制裁による資源価格の高騰や記録的な円安も続いており、社会・経済に大きな影響を与えております。

農業分野でも肥料や飼料をはじめ、電気料金・燃料価格等は前年よりやや落ちついてきましたが、依然高い水準にあります。野菜・果樹等は異常気象の影響で平年より高めの価格が続きましたが、収量の減少により農業経営の苦しさは続いています。

23年産米は、作況から収穫量662万トンで適正生産量669万トンを下回り、適正在庫200万トンに対し177万トンと見込まれておりますが、直近の消費動向を見極めて24年の適正生産量は669万トンに設定されました。これを受けて、飯山市には前年と同じ6180トン（面積換算5.3ha減）が配分されました。近いうちに各生産者へ配分量が示されますが、米の消費量が減少している

ため、米価の下落を防ぐためにも皆が協力していくことが求められています。

本年は、農政の憲法といわれる食料・農業・農村基本法の改正が予定されています。昨年の臨時国会での首相所信演説において安倍政権で重視した「農業の成長産業化」が消え、「食料の安定供給」への変化がありました。昨今の世界情勢の中、国内生産の強化が必要との認識から、これを実現するため農家の所得を確保するとともに農地の減少を防ぐ政策が必要との考えだと思います。しかし一方では、インフレに苦しむ消費者の目線が欠けるとの批判も出ています。農業の持続発展のため、さらに国民世論の喚起が重要です。

農業委員会の重要業務として、優良農地の確保と効率的な利用、担い手への農地の集積・集約化など、農地の活用を促すことが法で定められています。この一環として、将来残すべき地域の農地を明確化した

研修視察報告

飯山市農業委員会

高澤富士子 足立久子 石田慶子



▲大型スクリーンで研究成果を紹介



▲一番大切な土について「土壌コーナー」



▲人工衛星のレプリカの中へ



▲令和4年度は約158万人が来園



▲多種多様な農産物が並んでいます

【食と農の科学館】

11月8日～9日、農業委員会は管外視察を行いました。視察初日は、茨城県つくば市にある「食と農の科学館」を訪れました。当館は、農業・食品産業技術総合研究機構（農研機構）をはじめとする、農林水産研究を行う国立研究開発法人の成果や農業技術の発展の歴史などを紹介する施設です。館内には、国の大きな課題でもある食糧安定供給について、また作物や食品の付加価値化、バイオテクノロジー、地球温暖化適応に関する研究等、日本の高い技術力を活かした研究等について、ブースごとに映像やパネルを通じてわかりやすく展示されていました。水田の水管理、無人除草機の活用、「植物工場」として実寸のトマト栽培の模型など、スマート農業の技術進歩の紹介もありました。

併設の農業技術発達資料館には、日本の農業の歴史を伝える貴重な農具の展示があり、館全体で、古代の農業から現代の最先端技術までの技術発達の進歩を、一度に学べる貴重な視察となりました。

農研機構の紹介や、スマート農業の実現へ向けての取り組みなど60本以上の動画はYouTubeで視聴できるそうです。ぜひご覧ください。

【JAXA 筑波宇宙センター】

次は「JAXA 筑波宇宙センター」を見学しました。JAXAのドーム内は、代々の巨大な人工衛星のレプリカが並んでいました。また、ISS（国際宇宙ステーション）の実験棟もあり、想像より狭く、この中で数々の実験が行われているのと感じました。JAXAでは、衛星を利用して全地球の降水情報をリアルタイムで収集する、全球降水観測（GPM）を計画しています。GPM主衛星と世界各国の人工衛星が協力して地球全体の降水を高頻度、高精度に観測することができるそうです。作物の生育は、光、温度、水環境などの農業気象要素と大きく関係があります。人工衛星観測により、降水量、土壌水分量、日射量等、農業気象情報システム（JASMIN）を活用し、いつか農業に役立てることができればいいなと思いました。

【まちの駅 道の駅 アグリパークゆめすぎと】

9日は、埼玉県杉戸町にある「まちの駅 道の駅 アグリパークゆめすぎと」を訪れました。杉戸町（人口約44,000人）は豊かな水と肥沃な土壌に恵まれた田園都市で、ベッドタウンとしても発展しています。この日は道の駅を運営する『有限会社アグリパークゆめすぎと』の田中部長から話をお聞きました。

“家族で1日楽しめる！”をコンセプトに平成13年4月にオープンした「アグリパークゆめすぎと」は、広大な敷地内に多種多様な農産物を揃える直売所（登録者数約130名）や地元産の食材を活用する食堂のほか、体験農園、イベント広場、自然観察広場などがあります。視察当日も食堂を利用するドライバーや広場で遊ぶ親子連れで賑わっていました。

都心に近く、周辺人口が多いという立地を活かして、道の駅自体が目的地となるような事業を展開し、来園者増や売り上げ実績につなげています。その試みの一つである「ふれあい農園」では廉価で農地を貸し出して、親子と一緒に野菜作りを体験できる場を提供し、「カントリー農園」では玉ねぎ、じゃがいも、なす、とうもろこし、冬季は大根、白菜など季節野菜の収穫が体験できます。農園には東京方面からの利用も多く、リピーターとなって繰り返し来園される人もいます。

道の駅（直売所）の賑わいは、同時に農産物のPR効果を高めます。ロケーションに恵まれた飯山市の道の駅「花の駅 千曲川」も優れた眺望や周辺農地の利活用により、農業振興にもさらに大きな可能性が期待できるのではという感想を持ちました。

今井寛さんに「全国農業会議所会長表彰」

11月21日、長野市のホクト文化ホールにおいて第8回長野県農業委員会大会が開催され、その席上にて農業委員等功績者表彰が行われ、木島地区野坂田の今井寛さんが表彰されました。今井さんは農業委員を4期12年、推進委員を1期3年と、15年間の長きにわたり農業委員会の委員を務められました。また、地域においては千曲川



河川敷の遊休農地の解消に貢献され、さらに、米作りを通じた子供たちの学び・体験の場づくりに対しても積極的に関わられています。この度、これらの功績が認められ、（一社）全国農業会議所会長表彰を授与されました。

「地域計画」を関係者の協力を得て作成しています。農地のことは何でも遠慮なく相談いただくようお願いいたします。

本年も農業委員会は農政諸課題について、農業農村の発展につながるよう組織を挙げて運動を継続してまいりますので、各位のご指導ご協力をお願いし、年頭のご挨拶といたします。

あしあと 11・12月の活動記録

11月7日	農業委員会役員会
8～9日	管外視察研修
21日	長野県農業委員会大会
27日	11月農業委員会総会
12月8日	農地相談
〃	農業委員会役員会
25日	12月農業委員会総会